

# 猫と人

中島八十一

NHK大河ドラマ「光る君へ」に小麻呂なる猫登場す。カメラクルーに怖ぢず、ディレクター望む振舞示せばタレント猫の本領發揮せり。左大臣家の源倫子の飼へる猫なれば、首輪も綱も一級の設へなり。

そも猫と云へば犬を語るが常なり。犬水平面を移動するを専らにする生き物にして木登りすることなし。猫常に上下を移動し、犬見下ろすによりてこれを見下すに至るは必然なり。かくして猫の天下睥睨し、お天下様にて君臨するは猫ならではの佇まひにして絶えて犬にはあらず。しかるにその性癖犬を見下すことより生まれたりや。倫子と同時代に清少納言記すに天皇飼ひたる猫、ある一日下男猫に向かひて犬けし掛くるに驚き慄き天皇の懐に逃げ隠れたるに、天皇いとど怒りたり。世話係馬の命婦大いに恐縮し世話係辭し、當の犬は打ち据ゑの後追放の憂き目に遭ひたり。天皇家の飼ひたる猫には命婦が仕へ、同じく飼ひたる犬はさあらねば當時の猫の地位の高きこと明らかなり。何故ぞかくなりたらん。

犬には人の役に立たむとする生来の美しき性分あれど、猫にはその氣配全くなし。犬はその性分ゆゑに犬・人の連携成り立てば一萬年前より共生關係に入りたり。片や猫・人の共生關係五千年に及ぶも人の語るに猫鼠を捕る有益なる獸なれば人これ飼ふに至ると。東京大學農学部の研究に據れば猫の鼠を捕るは人が米飯に味噌汁を主たる餌として與へたるに動物性蛋白質に飢ゑし猫の己む無き行動なり。動物成分豊富なるペットフードの主流になりし今日猫にとりては鼠を捕る要なし。鼠取る故に人の猫飼ひたる理由成り立たず。我が家の猫キャットフードを食すことを常とすれば、天井裏の鼠駆け回るにただ上を見上ぐるばかりなり。猫の人との共生の始まりの由は猫飼へばその解自づと明らかになる。人において猫可愛がりの語示す通りに寢轉びてニヤと小さく鳴きさへすれば柔らかき褥と食べ物を得るに至る。猫より見るに人ほど猫に役立つ動物他になし。そのことに氣付きしは五千年前ということならん。人にも直ちに騙され居ることに氣付くも如何ともし難し。猫十二支に入らざるは當然なり。

(令和六年三月二十三日受附)